



## 令和3・4年度 特別支援教育センタープロジェクト研究より

令和3・4年度特別支援教育センタープロジェクト研究において、『児童生徒一人一人の資質・能力を育む交流及び共同学習～小・中学校の通常の学級と特別支援学級における実践研究～』というテーマで、研究が行われました。モデル地区として、田村市立滝根小学校等が研究推進校となり、たむら支援学校も研究協力校（センター的機能）として地域支援センターが研究に参加しました。交流及び共同学習についての研究の成果と課題を滝根小学校の取組をもとに整理しましたので、ご確認ください。

### プロジェクト研究の概要

第1回実践検討協議会資料 より

#### 背景

○本県で行われている交流及び共同学習については、交流を中心とした取組が多く、共同学習の側面での教科指導の取組が少ないことが指摘されている。  
○特別支援教育センターでは、これまでの研究の取組を通して、「交流及び共同学習の学習内容」「校内支援体制」等の課題が挙げられている。

#### 目的

小・中学校での交流及び共同学習において、児童生徒一人一人の資質・能力を育むための効果的な指導及び支援の在り方を探り、「共に学ぶ」環境の構築を目指す。

#### 特別支援教育センター

- 小・中学校における交流及び共同学習の現状と課題の把握
- 小・中学校における交流及び共同学習の組織的・計画的な取組
- 児童生徒一人一人の資質・能力を育む交流及び共同学習の授業づくり

#### モデル地区（田村地区 ほか）

- 小学校（推進校）  
**田村市立滝根小学校**（ほか） ↔ 中学校（協力校）
- ◎特別支援教育に関する校内研修
  - 交流及び共同学習実施計画の作成
  - 交流及び共同学習の授業研究
  - 校内支援体制の整備・充実

#### 共生社会の形成

地域で共に学び、共に生きる  
教育の充実

～「共に学ぶ」環境～

特別支援教育の理解の深まりと  
校内支援体制の充実

小・中学校における  
交流及び共同学習の内容の充実

児童生徒の相互理解と  
多様性の尊重

交流及び共同学習における  
児童生徒の学びの充実

#### 実践検討協議会

- 交流及び共同学習における効果的な指導及び支援の在り方
- 地区内における研究内容の取組の波及

研究アドバイザー（大学教授）

教育委員会等

特別支援学校  
（地域支援センター）  
**たむら支援学校**（ほか）  
研究協力、センター的機能

### 田村市立滝根小学校の取組

#### 交流及び共同学習の授業実践 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりと合理的配慮の提供～

「どの子にも分かりやすい授業」を目指して、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりに取り組んでいる。特別支援学級在籍の児童Aさんの教育的ニーズを踏まえ、合理的配慮を含む支援を提供しながら、交流及び共同学習の参加の仕方や学びの充実について研究した。

#### <Aさん>

- 知的障がい特別支援学級在籍
- 主な実態
  - ・入学当初から同じ集団で交流及び共同学習を行っており、周囲の児童と共に学ぶことが自然に行われている。
  - ・友達からのアドバイスを素直に受け入れ、学習活動に取り組むことができる。
  - ・言葉による理解が難しく、学習していることが分からなくなると、他のことに興味が出てしまう。
- 主な支援内容
  - ・実験方法や目的を理解しやすいように絵や図を用いた視覚支援を行う。
  - ・理科の時間においては、必要に応じて電卓を用いて、計算に取り組むようにする。

#### 通常の学級の担任の取組

- 通常の学級の学習環境の工夫【基盤】  
☆落ち着いた学級集団 ☆認め合う子どもたち
- +
- ユニバーサルデザイン（以下：UD）の視点を取り入れた授業づくり  
**焦点化** **視覚化** **共有化**
- +
- 合理的配慮を含む支援の提供

#### 特別支援学級の担任

- 年度当初
  - Aさんの教育的ニーズを基に、適切な指導、必要な支援を確認する。
- 日常的に
  - 情報交換・評価  
Aさんの通常の学級での学びの様子を把握し、特別支援学級での学びに生かす。

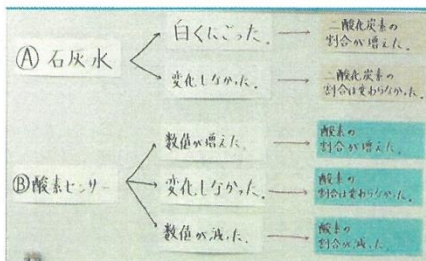
連携

## 田村市立滝根小学校の授業実践

### 理科の授業実践～Aさんの学びの姿から～

小学校6年理科「動物のからだのはたらき」

#### UDの視点での授業づくり

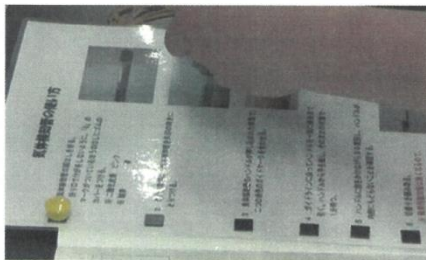


実験結果を判断する拠り所を掲示

教師は、呼吸の仕組みをとらえさせるため、石灰水や酸素センサーを用いた実験の結果と考察の関係を視覚化した。

児童は、掲示されている「石灰水の変化や酸素センサーの数値が示すこと」を根拠や手掛かりにして、呼吸の仕組みを自分の言葉でまとめることができた。

#### Aさんに対する合理的配慮



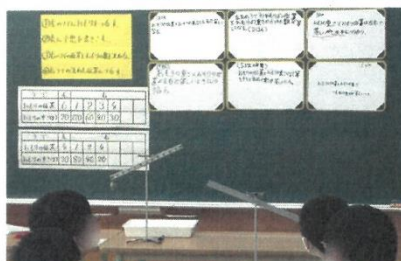
「気体検知管の使い方」の作成

教師は、Aさんが実験方法や目的を理解しやすいように、「気体検知管の使い方」をまとめた表を作成した。

Aさんは、「気体検知管の使い方」を手元に置いて、友達が実験する様子に合わせて黄色い磁石を動かし、気体検知管の使い方を確認することができた。

小学校6年理科「てこのはたらき」

#### UDの視点での授業づくり

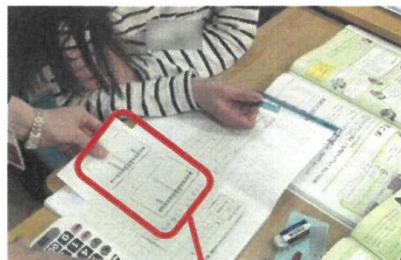


実験結果から気づいたことの共有

教師は、児童が実験を通して得られた気づきを、班毎にホワイトボードに記述させ、黒板上に集約し共有化を図った。

児童は、他の班も同じ内容が書かれてあったことから、てこが合っている時のてこに加える力の大きさと支点からの距離の規則性が分かり、自分の言葉でまとめることができた。

#### Aさんに対する合理的配慮



まとめの「学習シート」の工夫

教師は、Aさんの本時の目標を、「実験結果から、実験用てこが水平につり合うときのきまりを理解すること」に設定した。

Aさんは、学習のまとめとして、理科日記を書く活動ではなく、教師の準備した「学習シート」を選択し、正しく問題に答えることができた。

令和3・4年度プロジェクト研究【交流及び共同学習推進事業】第2回実施検討協議会 資料より

## 研究のまとめ

### □ 学校全体での組織的・計画的な取組

- 学校全体で交流及び共同学習の意義を共有するとともに、具体的な実施方針や計画を明示していく。
- 全ての児童生徒が目標を達成できる授業づくりのために、学びの状況を共有し、それを生かす連携体制を定着させていく。

### □ 支援内容の共有

- 特別支援学級担任が、児童生徒に**必要な支援内容を的確に把握**する。
- 合理的配慮を含む支援内容を明確にし、**個別的教育支援計画・個別の指導計画に記載して共有**する。
- 指導担当者の負担過重にならないように、支援内容に応じて、**人的支援や物的支援を検討**する。

### □ 特別支援学級の教育課程の充実

- 特別支援学級において、実態に応じた各教科等の学びや自立活動の指導ができる**特別的教育課程の充実**を図る。
- 特別支援学級の教育課程を踏まえて、交流及び共同学習を行う**教科や単元、時間を精選**する。

### 学校の文化として根付かせ、継続させていく

令和3・4年度プロジェクト研究【交流及び共同学習推進事業】第2回 実施検討協議会 資料より

今回のプロジェクト研究を通して、交流及び共同学習の在り方がモデルとして示されました。小・中学校においても、ユニバーサルデザインの授業づくりや合理的配慮が有効であること、学びの状況や支援内容を共有すること、実態に応じた各教科等の学びや自立活動の指導ができる教育課程の充実などが大切であることも確認されました。特別支援学校で、日々の実践で取り組んでいる視点や考え方が大切であり、そのノウハウを今後も発信していくことができればと思います。

